

# 郷土かみのかわの歴史・文化財

## 町指定文化財 多功大塚山古墳

多功大塚山古墳は、国道352号線の南、多功南原工業団地の北の畑に位置します。昭和10年代に行われた開墾によって現在は畑になっていますが、「大塚山」との名前が示すように、周辺から良く見えた大きな塚で、地元の子どもが、日本一高い山はとの質問に、「大塚山」と答えたとの逸話からも、その大きさを想像することができます。

この古墳は長年の風化によって、形が徐々に崩れてしまいい、古墳時代中期（5世紀）の大型円墳と考えられています。しかし、平成4年に行われた発掘調査の結果、古墳時代の終わりの7世紀半ばかり後半にかけて造られた、栃木県最大規模の方墳で、一辺53.8mもあることがわかったのです。実はこの発見は、終末期古墳に方墳が無いと考えられていた、下野の歴史を変え大発見でした。

以前の6世紀は、群集墳に見られるように、各地で多くの古墳が造られていました。上三川でもこの時期の古墳が群を抜いて多いのです。しかし、6世紀の終わりになると、古墳の築造は徐々に減り始めます。そして、7世紀頃には前方後円墳は姿を消し、やがて、群集墳を含めた古墳も激減していきます。しかし、決して古墳の築造は無くなったわけではなく、一部では古墳の築造が継続します。これは終末期古墳と呼ばれます。終末期古墳は、後の奈良時代のほぼ郡単位で作られる特徴が見られることや、古墳の減少といった事実から、公地公民制度を基本とする中央集権国家体制の建設が、この時期に進行していたと考えることができます。更に、前方後円墳がなくなっただけで、畿内では、天皇陵を中心に前方後円墳から方墳へと古墳の形

が変化していることから、方墳を造ることを許された多功大塚山古墳に埋葬された人物は、中央と密接な関係を持っていたと言えます。

多功大塚山古墳の周辺には奈良時代以降、下野薬師寺、上神主・茂原官衙遺跡、多功遺跡など、律令期の寺院や河内郡役所に関係した遺跡が数多く見られますが、このことから、後に河内郡司となった一族の首長が、この墓に葬られていると考えられるのです。古墳時代から奈良時代へと社会の大きな変換を考える上で、重要な古墳ということができます。



多功大塚山古墳

奈良時代			飛鳥時代・古墳時代																
722	716	714	708	701	689	687	673	664	7世紀半ば後半	646	645	643	630	628	622	610	607	604	西暦
養老6	霊龜2	和銅7	和銅元	大宝元															元号
百万町歩開墾計画が建てられる。	下野国などの高麗人を武蔵国に移し、高麗郡を設置する。	下野国、大風により租調を免除される。	下毛野古麻呂、式部卿になる。	大宝律令が完成。下毛野古麻呂が選定に加わる。	飛鳥浄御原令が作成される。	帰化した新羅人を下野国に置く。	下野薬師寺がこのころ創建される。	白村江の戦い。唐・新羅連合軍に日本敗れる。	このころ多功大塚山古墳が造られる。	「薄葬令」により、古墳の築造が制限される。	大化の改新。中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我入鹿・蝦夷父子を滅ぼす。	蘇我入鹿、山背大兄王を襲う。	第1回の遣唐使が派遣される。	推古天皇が亡くなる。	聖徳太子が亡くなる。	高句麗の僧曇徴が紙・墨などの技法を伝える。	小野妹子ら遣隋使として渡る。	冠位十二階の制施行、十七条憲法が作られる。	できごと

巡回バス最寄りバス停  
 明治南線（みどりのバス）  
 上三川高校下車、徒歩5分  
 ▼問い合わせ先＝  
 生涯学習課 生涯学習係  
 ☎9159